

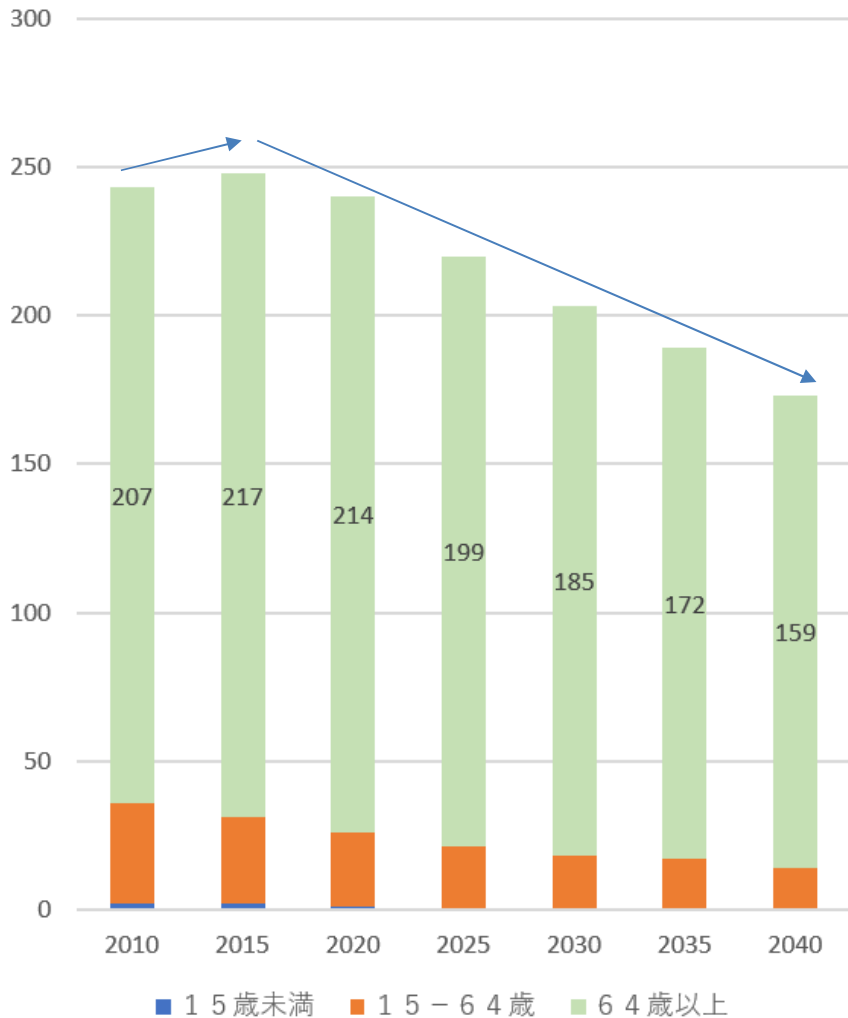
医療需要の現状と将来推計

資料5

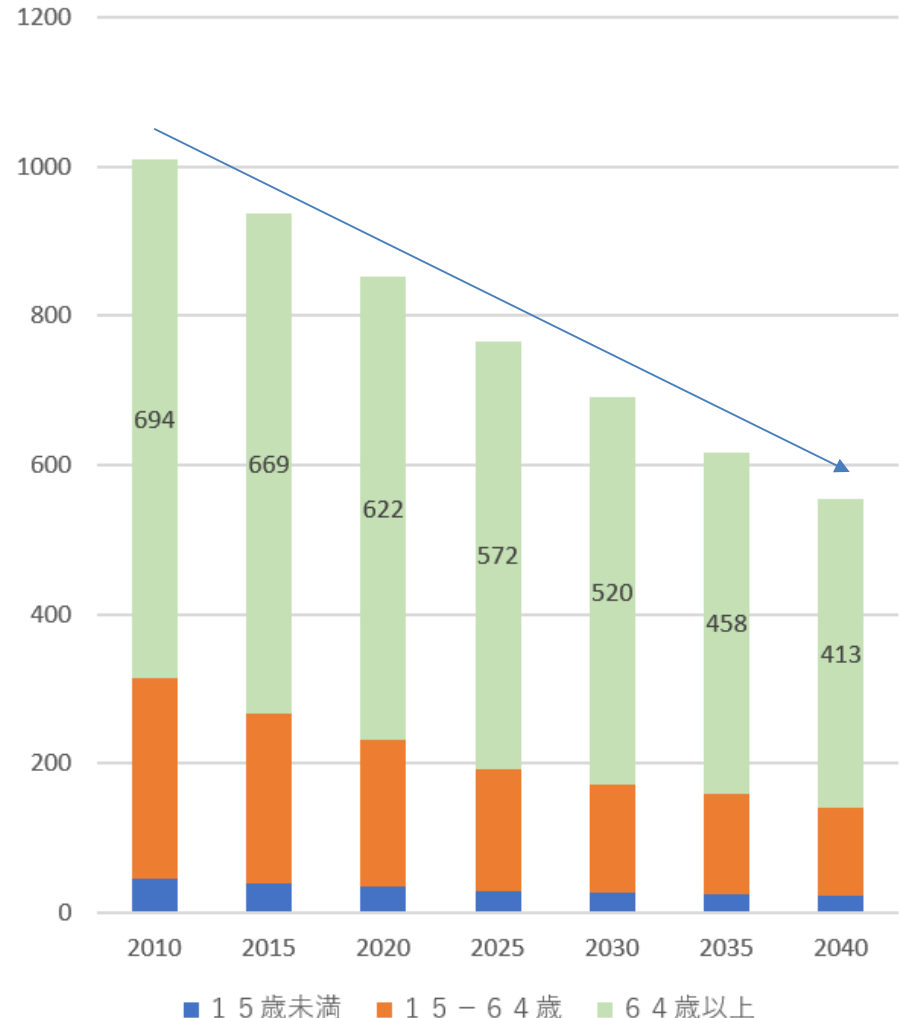
- 既に、人口減に伴い、外来と急性期・回復期の入院需要は減少中。
- 後期高齢者が人口減に転じたことと連動して、2015年(平成27年度)から慢性期の入院需要も減少局面に突入
- それに伴い3病院の療養病床の病床利用率も減少
- 近年、急性期・回復期の入院医療を担う嶺北中央病院の入院需要の減少が大きい
- 既存病床数と2025年の必要病床数(中央圏域の中で単純に人口按分)の比較では、急性期・回復期がやや少なく、慢性期がかなり多い。

2015年をピークに入院患者も減少局面に (嶺北地域の1日当たり入院・外来患者数の将来推計)

嶺北地域入院患者数の将来推計



嶺北地域外来患者数の将来推計



広域的な患者動向の実態把握と対策の検討

- 現状：平成28年高知県患者調査
 - 外来：31.5%が嶺北外に流出（22.5%が高知市）
 - 入院：34.3%が嶺北外に流出（25.6%が高知市）
- 嶺北と嶺北外（主に高知市）の間の患者の流れと課題を把握
 - ① 嶺北からの紹介患者の逆紹介が適切にできているか
 - ② 嶺北地域の医療機関を介さず直接、高知市等の医療機関に入院している患者について
 - ア 入院が必要な患者の受入れ（転院）が適切にできているか
 - イ 自宅等（居宅）に退院した患者について必要な医療連携ができているか
 - ③ 嶺北地域以外の慢性期に入院及び施設等に入所した患者で、嶺北に帰ることを希望しながら帰れていない患者がいらないか
- 上記をもとに課題を検討整理し、具体的な対策を検討

今後、嶺北地域全体で現状把握と対策が必要な患者の流れ

